震災を学ぶたび

宮城・南三陸

●みなみさんりくちょうひがしにほんだいしんさいでんしょうかん
みなみさんりくさんいちいちめもりある

南三陸町 東日本大震災伝承館 南三陸311メモリアル

宮城県北東部の町、南三陸に2022年10月に開館した伝承施設。エリア一帯は道の駅「さんさん南三陸」として登録され、商店街や観光案内所、JR志津川駅を含むバスターミナルなどから構成されています。

Shinsai wo Manabu Tabi

DATA➡P57

←3面を使ったシアターで上映。ランダムに置かれた椅子は自由な対話を促してくれる（写真提供：南三陸町）

←天井近くに防災対策庁舎を襲った津波の高さが記されている。入口付近のエリアは入場無料

1 三陸地域を襲った「震災と津波の歴史」に触れる

白壁一面に記されたデータは、周辺地域で起きた震災と津波の記録。東日本大震災だけではなく、過去の災害についても触れられており、いかにこの地で津波の被害が繰り返されてきたかを思い知らされます。天井付近のメモリはかさ上げ前の土地から15.5mの高さにあり、町の防災対策庁舎を襲った津波の高さと同じです。

↑立体地図で地形を表し、過去の津波被害について解説（写真提供：南三陸町）

2 「住民の証言」からあの日のことを知る

800名以上の死者・行方不明者を出した南三陸町では、被災した住民のうち約90名から証言を集め、映像に収録しています。防災対策庁舎で被災した役場職員の方など、紡ぎ出すように語られる町民一人一人の証言からは、震災の状況をまざまざと突きつけられます。震災当時小学5年生だった児童が書き記したメモも必見です。

↑→この展示ギャラリーからは有料エリア。ラーニングプログラムが開始されるまでの間、じっくりその声に耳を傾けよう

ラーニングプログラム

今回参加したのは

専用シアターで住民の証言映像を見ながら参加者同士で対話し、防災の知識を学びます。プログラムは「生死を分けた避難」と「そのとき命が守れるか」の2種類から選択。

所要 60分　料金 1000円
高校生800円、小・中学生500円
※30分版もあり

↓クリスチャン・ボルタンスキー《MEMORIAL》2022（写真提供：南三陸町）

3 現代アート「MEMORIAL（メモリアル）」と向き合う

フランスの現代美術家・クリスチャン・ボルタンスキー氏が町の依頼を受けて制作したインスタレーション空間「MEMORIAL」。ユダヤ系の父をもつ同氏は幼少期から戦争の話を耳にし、人の死や命、存在をテーマにした作品を世界各地に残しました。震災直後に実際に被災地を訪れ、インスピレーションを得て作られた作品の世界観を感じてみましょう。

——この仕事に携わるようになったきっかけを教えてください。

震災当時名古屋で大学生だった私は、ボランティア団体に所属し、被災地に何度も足を運びました。卒業後も同じ団体の職員となり、東北のみならず、熊本や長野にも赴きました。ただ平成30年（2018）に大阪で起きた北部地震に大きなショックを受けたんです。阪神・淡路大震災で被災した地域でも20年以上経つとこうなるのか…と。その被災経験が生かされずに混乱していた現場を目の前にして、震災を伝承していくことの難しさと必要性を痛感したのです。東北でもまた起きるかもしれない、伝え続けなければいけない、その思いで東北に戻ってきました。

——ラーニングプログラムで感じてほしいことは何でしょうか。

証言映像だけではなく参加者同士で具体的に話し合う問いかけの時間があることが特徴です。施設全体のコンセプトとしても見て終わるだけではなく、それをもとに考えてほしいという思いがあります。自分ごととして防災学習に役立ててほしいです。

案内人
おおいしよしたか
大石義貴さん

あわせて行こう！

「南三陸311メモリアル」から車で約50分

石巻

みやぎ東日本大震災津波伝承館

DATA➡P65

↑かつての市街地に建設されている

来訪者を宮城県内の震災伝承施設などへ誘うゲートウェイ（玄関口）を目指し、2021年に開館。正円形の屋根が印象的な建物は一面ガラス張りとなっていて、日和山や追悼の広場が視線の先に広がります。パネル展示やシアター映像のほか、タッチパネル形式で県内各地の語り部のメッセージを聞くことができます。毎週土曜日には直接お話を聞ける語り部講話が実施されているので、ぜひ参加してみましょう。

↑毎週土曜に開かれる語り部講話

←視覚的に分かりやすくまとめられたパネル展示

Recommend ここに注目！

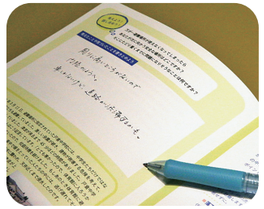
県内6つの震災遺構をVR映像で視聴できるコーナーがあります。流れ込んだがれき、ボロボロに剥がれた壁や天井、波が引いたばかりのあの日の場所に、自分が立っているような感覚に。正直、怖さを感じるほどです。特別企画も充実しており、学術研究や復興の最前線で活躍されている方々からお話を伺えるのも大変貴重です。

震災伝承ライター
ジェンティーレ恵

「防災・「自然と人間」・「命を守ること」を考える

4 災害について学び合う「ラーニングプログラム」

施設のメインコンテンツであるラーニングプログラムは、約60分（ショートは30分）の映像を通して証言を聞き、「もし自分がそこにいたら、どう考えどう行動するか」を考える場。さまざまな問いと1分間の対話の時間が設けられているため、ただ受け身ではなく、自分ごととして捉え、より防災の意識を高めることができます。



←防災ミニブックは持ち帰りOK。防災の知識がまとめられているので振り返りにも利用できる

↑2013年秋から2021年夏にかけて実施されたプロジェクト。館内の無料エリアにあるので誰でも見学可能

5 今を生きる人々を写した「みんなの広場」

もっと強くたくましく生きる

ラーニングプログラムを終えシアターを出ると、南三陸の人々の笑顔があふれる空間へと続きます。「みんなで南三陸」と題した写真プロジェクトは、写真家・浅田政志氏と住民がアイデアを出し合いながら制作しました。すべての人への感謝と、くじけない心・生きる喜びを伝える姿に、南三陸の人々の力強さが感じられました。

6 町を一望できる「展望デッキ」へ

命あることの尊さと向き合おう

最後は外階段を上り、展望デッキへ。旧防災対策庁舎や志津川湾、南三陸町震災復興祈念公園を見渡すことができます。学んだことを振り返りながら、あの日のこと、そして失われた命に思いを馳せ、心の中で祈りを捧げましょう。復興が進んだ町の姿に、10年以上の年月が経ったことを改めて感じさせられます。

↓目の前に「南三陸さんさん商店街」もあるので、帰りにぜひ立ち寄ってみよう

←赤い鉄筋の建物が旧防災対策庁舎。右手には南三陸町震災復興祈念公園も